



赤井川村立赤井川小学校 学校だより

あかがわ



令和5年 7月26日 No.4

【教育目標】

明日に生きる力をはぐむ
赤小の子

あいてを思いやり、認める子

からだをきたえる子

しょうらいのゆめや希望に向かって、
努力する子

発行責任者 校長 姉帯 隆文



「体験」の夏が来た

1～4年水泳学習

「人と人との関わりの中で成長した1学期」 校長 姉帯 隆文

夏らしく気温が上がり、今週は蒸し暑い週となっています。少し前には本州では記録的な豪雨が続き、災害が多発するなど、異常気象に関する報道が明らかに過去に比べ、増加していると感じざるを得ません。いずれは本州の異常な暑さが北上し、北海道にやって来る日が来るかもしれません。

さて、学校は、本日をもって1学期を終了し、明日から25日間の夏休みとなります。この1学期は、新型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行したことを受け、学校の対応も変更となり、学校行事や授業も通常に近い状態で実施できるようになってきました。赤井川村の会議や催しも実施され、コロナ禍前の状態に社会全体が徐々に近づいてきていることを肌で感じます。ただし、先日の道内高校の学校閉鎖があったように全くなくなったわけではなく、油断すると広がる、まだ終わっていないということを改めて感じました。学校では、手洗いや換気等の感染症予防を継続しており、インフルエンザ等の予防にも繋がることとして、手洗いは普段の習慣として身に付けさせたいことの一つと考えます。普段から少しの注意や気遣いは今後も続けていきたいと思います。

この1学期はたくさんの行事があり、昨年度より幅を広げた活動が行われました。運動会や交通安全青空教室、遠足、花いっぱい運動の花壇の苗植え、租税教室、夏季国際交流での教育大外国人留学生との交流、水泳やクラブ活動もありました。異学年の交流としては、入学時の6年生による1年生のお世話に始まり、1年生を迎える会、全校遊びやクラブ活動、委員会活動、なかよし班学び合い活動も行い、上級生から下級生にやり方や手本となる姿を伝えたり、支えたり協力したりする中で、信頼関係を築き、いじめの未然防止に役立ってくれていると感じています。また、延期の末の運動会は昨年より種目を増やして実施し、子ども達の力を精一杯出し切る姿を見ていただくことができました。カルデラ太鼓は昨年よりさらに難しい演目にも挑戦しました。校内では6年生が全校に挨拶を呼びかけたり、学習のやくそくを意識させたり、最高学年としての立場での活動を全校へ向けて発信していたのが印象的でした。

この1学期も、学校の授業や行事で地域・保護者の方々にお世話になりました。カルデラ太鼓では、租税教室は役場の 〇〇さん、3・4年生の総合的な学習の時間には赤井川の自然では 〇〇教育長、オサムシなど赤井川の昆虫についてはアリスファームの 〇〇さん、赤井川の蛍については 〇〇さん、アスパラの苗植え体験をコロポックル村の 〇〇さん、5・6年生の総合的な学習では、田植え体験を 〇〇さん、カルデラ太鼓の成り立ちを 〇〇PTA会長さん、1・2年生は郵便局や交番を見学させていただきました。また、絵本の読み聞かせは、 〇〇さんに、今年新たに 〇〇さんが加わり2人体制となりました。この他、防犯教室を余市警察書の方などにもご協力いただきました。皆さんありがとうございました。

多様な活動を通して、今学期も成長が見られました。また、保護者の皆様には学校評価のご協力ありがとうございました。児童の自己評価や職員の反省と併せて2学期の学校改善に生かしていきたいと思えます。

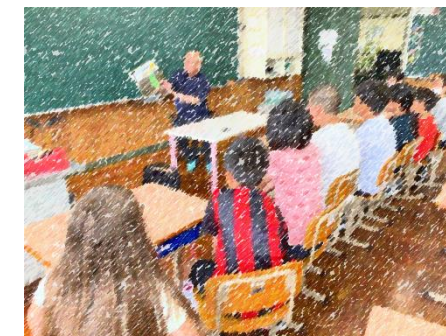
25日間の夏休み、水難事故や交通事故・けがに気をつけ、一つはこれを頑張ったと言える有意義な夏休みにしてほしいと思います。8月21日の2学期始業式に、全員が元気に登校することを楽しみにしています。



3・4年学級レク。かき氷屋台も登場しました。



5・6年学級レク。ドッジボールなどで大いに盛り上がりました。



3・4年読み聞かせ。登場人物たちの冒険と一緒に「体験」。

「コロナ禍」を経て「体験」の重要性を再確認

3年以上にわたって続いたコロナ禍で、学力以上に格差が拡大したといわれているのが、「体験」です。日本中で、感染防止のために学校行事が取りやめになったり、家庭での体験的な活動が減少したりしました。そういった「体験」の減少は、すぐに目に見える形では現れませんが、時間をかけて子どもたちに影響を与えると考えられています。教育経済学を専門とするある教授によると、厚生労働省のデータを分析し「体験にかけた時間が長ければ、学力が高い」ということがわかったそうです。

「体験と学力につながりがあること」を意外に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちは、大きな行事やたった1回の体験的な学習で、子どもが大きく成長する（場合によっては顔つきまで変わってしまう）ことを経験的に知っています。

子どもが自分に自信を持るとき、難しいことに前向きになれるときはどんな時でしょう。小さい時から好きな事や得意な事を見つけ、その目標に向かって努力する子もいますが、自分の好きなことや得意なことがなかなか見つからない子もいます。そんなとき一つのきっかけになるのが「体験」だと私たちは考えています。「一人ではやらないけどみんなと一緒に試してみたらうまくいった体験」「できるかどうかわからなかったけど、努力を重ねてなんとか乗り越えた体験」「それまで見向きもなかったけど、『あっ』と気づいて世界が新しくなった体験」。そんな体験が子どもを成長させます。

この7月赤井川小学校の子どもたちはたくさんの「体験」に恵まれました。赤井川の自然と人が「体験」を支えてくれました。夏は「体験の宝庫」です。この夏休み、子どもたちが豊かですてきな「体験」と出会えることを、心から応援しています。

1/ ドッジボール(てんか)を見守る二人。 2/ 学校玄関でノコギリクワガタを見つけて大喜び。

3/ 34年レクで貴重な「指紋採取体験」 4/ 5年生が育てている稲に穂が出たことを発見。

1

2

3

4



3・4年読み聞かせ。登場人物たちの冒険と一緒に「体験」。

